

教育目標		自主、自立、感謝の精神を抱き、未来を拓く生徒の育成 ～豊かな心、確かな学力、健やかな体を育てる～					
重点目標		①確かな学力の育成 ②豊かな心・健康な体の育成 ③開かれた信頼される学校づくり					
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
学力の向上	基礎・基本の徹底と授業改善	・「学習意欲をわかせる学習活動」「協同的探求」についての研修会や授業研究をもとに、全教職員が指導方法の共有、改善を行っていく。 ・「学習の手引き」を生徒、全教室に配布し、いつでも、誰でも学習内容や方法が理解できるようにしておく。 ・「学級経営スキル」の向上を図り各担任が、学級経営目標を明示し、学年や学校間で共有できるようにする。 ・教科部会での検討を綿密にし、教師全員が、年一回の公開授業を実施する。 ・終礼学習時に、新聞の書き写し、要約文や、意見文を書く活動に取り組む。 ・週2回のコミュニケーション・トレーニングを継続し、「話すこと」「聞くこと」「書くこと」の通常授業に必要なスキルを身につけさせる。	・生徒アンケートにおいて、「授業は分かりやすく楽しい」と回答した割合が80％以上になる。 ・生徒アンケートにおいて、「先生は、教え方にいろいろ工夫している」と回答した割合が90％以上になる。	B	・公開授業週間を設定し、教師間で意識して公開授業、授業改善を行った。 ・生徒アンケート「授業は分かりやすく楽しい」と解答した生徒の割合は77％、「先生は、教え方にいろいろ工夫している」と回答した割合が87％であった。それぞれ目標を満たせなかったことを反省し、生徒にとって「わかる」「楽しい」授業を、研修会などで教員の意志統一をはかり、改善を行わなければならない。 ・学級経営目標を明示し、教師間で共有することで、学年、学校としてのさらなる連携の強化を意識づけることが出来た。 ・終礼学習の形態を学校で統一し、充実させることによって、「読むこと」「書くこと」への抵抗を少しずつ減らしていく取り組みを行った。 ・コミュニケーション・トレーニングでの活動を授業に取り入れたり、アクティビティな活動を盛り込むなど、「協同的探究」を目指して、校内研究を進めている。 ・小学校と連携し、現状と課題を確認し、指導内容や方法などの共有、検討をはかる。	・公開授業を行ったあとの事後研究会、授業改善に向けての検討会をより綿密なものにし、研究会や授業研究会をもとに、全教員の指導方法の共有を図る。 ・主体的・対話的で深い学びになるよう、各教科でアクティビティな活動を取り入れるなど、「言語活動の充実」「協同的探究」を目指した研究を校内で継続する。 ・生徒全員が「わかる」授業をめざし、最初の授業に基本的な問題演習に取り組みさせるなど、学習に対する自信や意欲を促せるような取り組みを行う。 ・マイ学、コミュニケーション・トレーニング、終礼学習など、校内で行っている取り組みの成果と課題を分析し、本格的な学力向上に向けての検討を進めていく。	・成果と課題については、前年度の数値との比較で検討する必要がある。前年度の数値も提示したほうがよいのではないかと。 ・「読むこと」「書くこと」への抵抗感を少しずつ減らす取組の中で、「書くこと」に関しては具体的に教師が書き方を教えていく方が効果的である。 ・「めあての明示」、「振り返り活動」を徹底していくことが大切である。
	学習習慣の獲得	・家庭学習の手引きを活用する。 ・長期休業中、放課後、土曜休業日の補習学習の充実に取り組む。 ・My学ノートの内容充実を図るため、学年に応じた目標を設定する。 ・学期ごとに各教科の学習内容と家庭学習の方法をプリントにして配布する。保護者とも連携して、より一層家庭学習を充実させる。 ・生徒・保護者ともに宿題が分かるように連絡帳の記入を徹底させる。	・毎日の家庭学習の時間が1時間以上の生徒を70%に増加させる。	C	・毎日の家庭学習の時間が1時間以上の生徒が65.3%で、70%には満たなかったが、前年度より2.4%増加した。 ・家庭学習を2時間以上している生徒は、去年度と同じ24.8%となっている。 ・1時間未満や、全くしない生徒に対しての指導、具体的な手立てを考えることが課題である。	・My学ノートの啓発の方法を、ページ数から時間提示にシフトする。 ・時間提示だけでなく、学習の方法を各教科で詳しく指導する。 ・学習委員等の係を利用して、啓発活動をより活発にする。 ・宿題の出し方を、各教科で検討、共通理解していく必要がある。	・生徒が主体的に学習に取り組む姿勢を向上させるためには、教師の研修を充実させる必要がある。 ・My学ノートの質を向上させるために、見本となるノートを展示して生徒に啓発していくこともよいのではないかと。 ・ノートの書き方については、教師側がポイントを提示する方が効果的である。 ・My学ノートを実施するにあたり、その効果を検証する必要はある。
	読書活動の充実	・月水金の朝、昼休みの開館を継続するとともに、月水金の午前中で終了する日も昼休みと同じ時間帯で開館する。 ・図書当番の活動を徹底する為、当番表を連絡黒板、クラス掲示等で周知する。 ・朝読書用集団読書を新たに購入して配架する。 ・年度末に貸出数の多かった生徒を表彰する。 ・1年生の入学後早い段階で図書館の利用指導を行う。 ・学級図書の増加、廊下本の充実をはかる ・校外学習用の資料をさらに充実させ、総合的な学習の時間等でも資料のみならず、図書館を利用していく。 ・「図書館だより」「学校だより」「ホームページ」で学校での読書活動の取り組みを紹介し、家庭での読書習慣につなげる。	・貸し出し冊数10000冊	B	・12月末の貸出冊数は9,301冊のため、目標の10,000冊は達成する。これは昨年度12月末8,741冊より11%増となった。 ・生徒アンケートでは「読書に力を入れている」と答えた生徒が74.8%(昨年度75.4%)と同程度であったが、国語科2年生のアンケートでは「読書は好きだ」と答えた生徒は58.5%だった。 ・例年1年生の来館者は少ないが、学校行事が落ち着いた秋以降1,2年生の来館も増えつつある。給食開始から1年が経ち、生徒たちも給食の準備がスムーズになってきたこともある。 ・図書館まつりや長期休業中の貸出冊数を3冊から5冊に増やす等、貸出冊数を柔軟にした。 ・国語科だけでなく理科や社会科、英語科や科学部、英語部の図書館利用もあり、そして先生方が個人的に図書室に來館して、本を借りられ職員室で本の話題が広がる機会もある。 ・図書館まつりは学習委員やボランティア、司書と協力して盛況に開催することができた。 ・修学旅行や校外学習、トライやる・ウィークや百人一首大会、ビブリオバトルなどでは図書館を積極的に利用することができた。	・朝、昼休みの開館を継続するとともに、図書当番の活動がスムーズに動けるように、週番に統一する。 ・学習委員会と連携し、購入図書の選定や学級図書の増加、移動図書館を定期的に行ったり、集団読書の種類をさらに増やすなど、生徒が親しみやすい環境をさらに整備していく。 ・図書館だより、学校だより、ホームページ等により学校で行っている読書活動について、継続して保護者や地域に周知していく。 ・校外活動用の資料が充実しているため、総合的な学習の時間に利用できるよう周知する。	・給食が始まってから時間的に図書室へ来ることができなくなっている現状がある。この1年で少し改善はみられたが、引き続き対策を講じていきたい。 ・図書館まつりについては、来年度も実施していただきたい ・図書館の蔵書について、子どもたちに人気のある本は多いが、内容自体が簡単になっている傾向がある。購入する本の質を向上させることが課題である。 ・移動図書館が大変好評であったと聞いている。定期的な実施に繋げてはどうかと思う。

教育目標			自主、自立、感謝の精神を抱き、未来を拓く生徒の育成　～豊かな心、確かな学力、健やかな体を育てる～					
重点目標			①確かな学力の育成　②豊かな心・健康な体の育成　③開かれた信頼される学校づくり					
項目		重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
豊かな心・健やかな体	不登校への対応	・不登校生徒数を減少していけるように、個々に応じたきめ細かい対応をする。	・「1日目の欠席」でも理由により家庭訪問を行うとともに、保護者との連携のため粘り強い働きかけを行う。 ・「2日目の欠席」は、家庭からの連絡の有無にかかわらず、担任が放課後家庭訪問をする。 ・「3日目の欠席」は、家庭からの連絡の有無にかかわらず、担任と学年教師が家庭訪問をする。 ・「4日目以降、連絡しての欠席」は、他の職員の支援を得て、いっそう保護者との連携につとめる。 ・心と体のアンケートの内容の充実を図り、指導に生かす。 ・職員間の連絡を密にし、積極的に関係機関との連携を図る。	・不登校生徒数を、前年度と比べ増加させないように取り組みを続けていく。かつ、生徒アンケートにおいて「学校に行くのが楽しい。」と回答する生徒の割合を80％以上にする。 ・30日以上の不登校生を昨年度より減らす。	B	・不登校生徒数（12月現在30日以上）は、昨年と同じで減らすことができなかった。 ・「学校に行くのが楽しい」と回答する生徒の割合は、前期79.1％　後期76.2％と80％以上にすることができなかった。 ・積極的に関係機関との連携を図った。 ・別室に来れるようになった生徒もいる。	・不登校生徒数を前年度と比べ減らすようにする。そのために不登校になる前の段階(7日～10日)でしっかり生徒に関わっていく。 ・不登校担当と担任の連携を密にする。 ・不登校傾向の生徒に関して小中の連携を密にする。	・不登校が依然多い現状がある。不登校の原因が、家庭と学校では対応が違うため、しっかりした見極めが必要である。 ・不登校対応は学校だけでは困難な面がある。地域人材(民生児童委員等)の活用を積極的に進めてほしい。 ・1年生での不登校の出現が多くなっていることをふまえ、小学校との積極的な連携をしていく必要を感じる。
	生徒指導	・組織的な生徒指導に取り組む。	・生徒指導係会を定期的に開催し、生徒についての情報交換を密に行う。 ・係会の確認事項を学校・学年での共通理解事項としていく。 ・指導に関しては全職員が同一步調で指導できるように、職員間で連携を取り複数で指導する。	・保護者、生徒アンケートにおいて「学校は適切に生徒指導をしている」と回答している割合を保護者85％、生徒90％以上にする。 ・教職員アンケートにおいて「組織的に対応できる体制が整っている」と回答する割合を85％以上にする。	B	「学校は適切に生徒指導をしている」と回答している割合が生徒・保護者とも昨年度を上回っているが、教職員アンケートにおいての「組織的に対応できる体制が整っている」という項目が昨年度を下回り、69.2％と目標を大きく下回った。	・学年内の風通しをよくし、生徒指導事案についてすぐに情報共有できるようにする。 ・4月当初の「生徒指導推進計画」「生徒指導具体的方針」を徹底して行う。 ・自主研修を活用し、事例研修を行う。	・学年内や学年相互の連携があまり出来ていない部分がある。積極的な生徒指導を行うために、連携を大切にして取り組んでいただきたい。 ・学校が崩れるのは非常に早い。先生方には、危機感を持って指導にあたっていたいただきたい。
	いじめへの対応	・いじめの未然防止、早期発見、早期対応に取り組む。	・教育相談やアンケート調査を実施し実態把握を行い、早い対応を行う。 ・ＱＵアンケート、ＣＯＣＯＬＯ３４を活用し、いじめの未然防止に努める。 ・いじめの認知件数を増やし、小さいいじめの芽を摘む。	・いじめられていると感じない生徒を100％にする。 ・いじめられていると感じる生徒を0％にする。	B	・いじめられていると感じない生徒は95％と目標に近づけることができた。ただし、「とても感じる」の項目を0％にすることができず、「いじめられていると感じる」という生徒が5％いた。 ・「学校へ行くのが楽しい」と回答している生徒が76.2％で、昨年よりも増えているものの20％以上の生徒が楽しくないと回答している。学校や教室が心の居場所になるような雰囲気にすることが重要である。	・学級が安心、安全で心の居場所になるように、学級経営やいじめのとらえ方について研修を行う。 ・アンケートを実施後、教員間で情報の共有を行い、早急に対応する。また、指導後も定期的に継続指導を行う。 ・ＱＵ、ＣＯＣＯＬＯ34について教員間で情報を共有する機会を設け、生徒理解につなげる。また、気になる生徒へのコミュニケーションを密にとる。	・アンケートを実施することにより、早期発見に努めていることは、今後も継続して行っていたきたい。 ・いじめに対する教師側の気づきは、重要であるため、研修等で研鑽していただきたい。
	道徳教育の充実	・「心の教育」を推進する。	・道徳を中心に全ての教育活動を通じて、命の大切さ、相手を思いやる心を育む。 ・指導案や教材を学年で共有できるようにする。 ・道徳の教科化に向け、内容項目に照らした教材の開発や、ローテーション授業などによる教師の授業力向上に努める。	・「自分を大切にすることや、他の人への思いやりについて教えてもらっている」の割合を85％以上にする。	B	・「自分を大切にすることや、他の人への思いやりについて教えてもらっている」と回答した生徒が前期は90.7％、後期は86.5％で両方とも85％を超えた。 ・ローテーション授業は定着しつつあるが、さらなる授業力向上に努める必要がある。 ・3学期には、校内授業研修会を道徳で行うなど、教科化に向け組織的に教員のスキルアップを図っている。 ・評価のことばかりに目がいきすぎて授業力向上の部分についてはおろそかになった。	・評価に向けての準備をさらに進めていく。 ・授業力向上に向けての研修を進めていく。	・来年度から始まる「道徳の教科化」に向けて、教師側の道徳観を向上させるとともに、校内研修等を入念に行い指導にあたっていたいただきたい。 ・道徳は生活全般に必要な事柄なので、学校教育全体で行う必要がある。
体力の向上	・自ら進んで体力を向上させようとする生徒を育てる。	・体育の授業を通して、体力の向上を図るとともに自己の健康面に対する意識を高める指導を行う。 ・部活動では競技力の向上に努める。 ・教師からの説明を分かりやすく簡潔にまとめ、活動時間を増やす。	・スポーツテストバッジ受賞者は3年生40％、2年生30％、1年生15％を目指す。（今年度より受賞基準が変更している） ・保健だよりについては、熱中症やインフルエンザなどの主要なものについてもＨＰに掲載し、より細かい情報を発信する。	C	・体力の向上については、スポーツテストなどの結果をふまえて、3年生は昨年度を上回ったが、1、2年生は下回った。 ・教師からの説明を理解し、活動する生徒が増えたため、主運動に時間をかけて活動することができた。	部活動の競技力向上については、昨年度に引き続き、継続して取り組む。 保健だよりにより、怪我や感染症、熱中症など、学校生活の気づきをHPに掲載する。	・スポーツテストでは、かなり評価できる数値を出している。体力の向上がなされていると考えられる。 ・部活動の活動については、スポーツ庁と文化庁の指導に従い行っていたきたい。 ・部活動において、顧問と保護者との考え方の相違があると聞いているので、すり合わせをお願いしたい。	

教育目標			自主、自立、感謝の精神を抱き、未来を拓く生徒の育成　～豊かな心、確かな学力、健やかな体を育てる～					
重点目標			①確かな学力の育成　②豊かな心・健康な体の育成　③開かれた信頼される学校づくり					
項目		重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
開かれ信頼される学校園	学校情報の積極的な発信	・積極的に学校情報を発信する。	・オープンスクール週間や、授業参観を実施し保護者や地域の意見を学校運営に活かす。 ・学校だよりを発行し地域にも配布する。 ・学校ホームページをタイムリーに更新し、学校情報を積極的に発信する。 ・保健だよりなどを通して、健康管理の啓発を行う。	・学校だよりを発行する。 ・自校のホームページをタイムリーに更新する。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」と回答した割合が90%以上になる。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は保護者の願いに応えている」と回答した保護者の割合が90%以上となる。	A	・「学校は、学校の情報を学校だよりやHPを通じて保護者に伝えている。」と回答した保護者が95.0%であった。 ・上記の結果は昨年を上回る結果であったが、情報発信（学校だより、ホームページの生徒会、部活動、学年だより、お知らせ等）をさらに充実したものにすることが課題である。 ・保護者アンケートにおいて「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」と回答した割合が84.7%であった。 ・保護者アンケートにおいて「学校は保護者の願いに応えている」と回答した保護者の割合が75.9%で、昨年の82.8%より下回っている。	・アンケート結果や保護者の意見を考慮し改善していく。 ・情報発信（学校だより、ホームページの生徒会、部活動、学年だより、お知らせ等）を継続して充実したものにする。 ・家庭訪問や懇談会等で出た意見等が必要に応じて学年、学校内で共有し、改善できるものについて手だてを具体的に講じる。	・情報発信については、保護者から高い評価を受けていると聞いている。引き続き取り組みをお願いしたい。 ・メール配信システム「ミマモルメ」の活用も順調と聞いている。ただ、登録家庭数が100%ではないので、登録数増加に向けての取り組みを進めていただきたい。

学校関係者評価総括
前年度に引き続き「学習習慣の獲得」でC評価となっている。My学ノートの取り組みなど評価できる部分はあるが、学習の根幹に関わる事項のため、取り組みに対する成果の検証が不可欠である。また、「体力の向上」に関してもC評価となっているが、これはスポーツテストの基準が上がり結果が前年度を下回ったため、来年度に期待したい。しかし、全国体力・運動能力では多くの種目で全国の値を上回っており評価に値する。荒牧中学校では、学習規律、協同学習の取り組みを続けており、落ち着いた学習環境の中で学習活動が展開されて成果はあらわれている。学校運営上特に大きな問題はないが、来年度より実施予定の「道徳の教科化」など、学校教育を取りまく環境が大きく変わる転機を迎えている。これからの時代に合わせた教育の実践を期待したい。

次年度に向けた重点的な改善点
これまでの本校の研究では、「めあての明示」「振り返り活動」等、子どもたちが「主体的・対話的で深い学び」が実践できる授業改善を行ってきた。しかし、今年度の学校評価を分析するにあたり、校内研修会の持ち方や子どもたちの家庭学習時間の不足、My学ノートの活用方法など学習面での課題が多くある。次年度に向けて、「生徒がわかる授業」を提供していくことを第一と考え、家庭学習の充実をどのように図るか、My学ノートの活用の検証など、全教職員が一丸となって取り組むべき課題が見えてきた。また、生徒指導面での大きな課題である不登校問題では、効果的な対応を行うために、職員の共通理解のもと足並みを揃えた実践をしていくが良いと考える。平成31年度は道徳が教科化となり、こどもたちの心の教育が一層大切な時代となってくる。これからの時代を生き抜く資質・能力を身につけさせることは、最大の学校教育目標である。荒牧中学校が目指す学校運営を管理職が中心となって、教職員全体へ周知徹底し、本校の学校教育目標の具現化をめざしていく。

自己評価の基準 A：目標を上回った B：目標どおりに達成できた C：目標をやや下回った D：目標を大きく下回った